

日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

2012年度NO. 18

2012年7月26日 日本共産党埼玉県議団

県立小児医療センター患者アンケートの結果公表 「移転心配」99.6% 5人に4人「運転負担」

埼玉県病院局が4月から5月にかけて実施した県立小児医療センター患者家族に対する第1次アンケートの結果が県のHPで公表されました。「埼玉県立小児医療センター」で検索して下さい。

患者家族からアンケートへの批判も

このアンケートは、この4月27日から5月26日までセンター外来を訪れた患者家族に手渡しで配布。返信用封筒とセンターでの回収箱、メールによって回収しました。6096枚が配布され、2115枚（回収率34.85%）の回答が寄せられました。（6月18日現在）

アンケートについて、患者家族の一部から「記名式で本当のことが書けない」「気づきにくい場所におかれている」「移転を前提にしたアンケートになっている」「日赤とどのように連携するのか、説明文が不正確」などの批判も出されていました。

平均が2.49科 最大14科の受診者も

現在かかっている診療科は第1位が眼科、第2位が整形外科、第3位が耳鼻科という結果になっています。（複数回答）最高14科を受診が1人、13科が4人、12科が5人、一人平均2.49科という重い結果でした。通院頻度は年2回程度という方が4割でしたが、月1回ないし2回という方が1035人もいます。通院方法は84%が自動車利用です。自由意見に「蓮田からのバスが1時間に1、2本しかなく不便」とあるように現在のバスの少なさも関係しています。通院時間は1時間以内が73%と圧倒的です。

移転した場合の心配「運転の負担」

移転に対して「心配はない」と答えたのはわずかに4.16%。99.6%が何らかの不安を抱えています。不安の内容は「運転の負担」1329人で1位。「無料駐車場の確保」が1278人で2位。「通院時間」1164人で3位。新都心という渋滞地域に移転することによる不安が、患者家族の中に広範に広がっていることがわかります。

難病を持った親の気持ちもっと真剣に考えて

自由回答は1661人から2107の意見が記入されました。自動車に係わる記述が圧倒的です。そのほか「実家の傍にすんでいましたが、子どもの難病のため病院に近いところに引っ越しをし、生活しております。すぐ採血をしてくれて対応してくれている小児医療センターが移転することは反対です。難病を持った親の気持ち、子どもの気持ちをもっと真剣に考えて下さい」という、ぜひ知事にみてほしい記述もありました。難病患者の気持ちに寄り添う行政こそが必要です。

「県立小児医療センターの移転問題を考えるシンポジウム」

9月9日(日)午後1時30分から

県民活動総合センターセミナーホール2

主催 県立小児医療センターの存続を求める患者家族の会